

ローランド株式会社

2025 年 12 月期 決算および 2026-2028 中期経営計画説明会 Q&A 要旨

日時：2026 年 2 月 13 日 13:00~14:30

説明者：代表取締役社長 CEO 蓑輪 雅弘、執行役員 CFO 袴田 裕一

【2025 年 12 月期決算について】

Q1. 2025 年の年末商戦の状況について教えてください。

製品別では管打楽器が 10 月発売のミドルクラスおよびホームユースクラスの新製品が貢献し好調でした。鍵盤楽器はポータブルタイプや中国市場の復調により好調でした。

地域別では北米が関税による値上げがあったものの好調に推移し、中国は底打ちをしっかりと確認することができました。

Q2. 米国関税影響を価格適正化ですべて吸収できていますか。

価格適正化のみでオフセットできてはいませんが、プロダクトミックス改善等も含め、吸収できています。

Q3. DW 社の減損損失について、なぜこのタイミングになったのか教えてください。

2022 年 10 月に買収し、黒字化が見えつつありましたが、米国関税影響などの環境変化への対応が遅れたことに加え、サプライヤー品質問題で新製品へのマイナスの影響があったこともあり、2025 年に減損となりました。

Q4. 棚卸資産と市場在庫の状況について教えてください。

棚卸資産は 24 年末から為替影響を除き 23 億円ほど減少しており、健全な水準です。

市中在庫も健全な状況です。

Q5. メモリー価格が高騰していると思いますが、2026 年 12 月期への影響と部材確保の状況について教えてください。

一定程度の上昇を予算には織り込んでいます。それ以上の高騰となった場合には価格適正化などの対応を検討します。調達については、2026 年について現時点で懸念はしておりませんが今後の動向を注視していきます。

Q6. 2026 年連結営業利益予想（説明会資料 P17）で、売価/原価変動が +24 億円となっています。新たな追加関税がない中で、どのように大きな値上げを実施するのか教えてください。

関税に対応した価格適正化を実施したのは 2025 年 5 月以降のため、この効果が今期は通年寄与します。また、新製品は関税影響も考慮した価格設定をしていきます。加えて大幅なものではないですが、インフレに応じた価格適正化もしていく予定です。

Q7. 2026 年連結営業利益予想（説明会資料 P17）で、販管費が 18 億円増加する要因のうち、中計施策に関連するものの内容を教えてください。

Roland Retail の強化、Game Changer となる製品開発への投資などです。

【中期経営計画について】

Q8. 重点戦略別売上高増減内訳（中期経営計画 P37）で、Direct Connect による増収効果が +100 億円となっていますが、内容を教えてください。

Connected Instruments（ソフト・クラウドと統合された新たな体験価値を提供する電子楽器）、直販チャネルの拡充など複合的な内容です。ソフトウェアで大きな売上を目指すわけではなく、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせにより、差別化や潜在顧客層の取り込みを強化して販売を拡大していきます。

Q9. 前中計では新製品販売比率の向上を KPI としていたと思いますが、今回の中計では新製品販売比率を意識しないのでしょうか。

2024 年 7 月に社長に就任してから、LTV の重要性を認識しており、既存製品の純粋な後継機種のような新製品開発の優先度を下げ、Connected Instruments 等の開発を優先させています。今中計期間から売上に貢献してくれると想定しております。

Q10. 中計業績目標（中期経営計画 P21）の中でリスクと感じているものがあれば教えてください。

トップダウン／ボトムアップを組み合わせた中計となっており、売上が伴えば限界利益率が高くオペレーティングレバレッジが効き、利益の増加も実現できます。その意味ではリスクは売上となりますが、中計戦略を進めることで達成可能であると考えています。

Q11. Connected Instruments がなぜ売上増加に繋がるのか教えてください。

これらの製品は差別化ができると同時に、潜在顧客層の取り込みにも有効だと考えていますので、単なる置き換えではなく、アドオン効果が期待できます。またハードウェアの売り切りではなく、顧客インサイトを基にした機能追加やサービスを提供することで、LTV の拡大も期待できると考えています。

Q12. キャピタルアロケーション（中期経営計画 P41）について、M&A で検討可能な事業や規模感について教えてください。

既存事業を強化する M&A があれば検討したいですが、大きな規模の M&A については、現時点では想定していません。

※本資料は、ご出席者様から頂戴した主な質問をとりまとめたものです。回答の意図をより分かりやすくするため一部加筆修正を行っております

免責事項

本資料には、ローランド株式会社の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。